

平成24年度 長崎県立長崎工業高等学校 学校評価（年間評価）

○ 評価基準

十分達成している 3. おおむね達成している 2. どちらかという達成されていない 1. ほとんど達成されていない
（平均は、全職員アンケート結果の平均値を示しています。）

学校経営における目標と具体的な項目

評価項目	目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
学校経営	学校の実態に即した目標が設定され、教師間の共通理解のもと、教育目標の具現化を図る。	三つのキーワード（ものづくり・資格取得・多様な進路）のもと「ひとづくり」を目指す。	3.2	3.3
		各学年・各分掌の経営方針に学校の教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。	3.0	3.1
		目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。	2.9	3.0
	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	学校の中期的なビジョンを検討し、教育活動を明確にする。	2.8	2.9
		各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	2.8	2.9
		教育目標や重点目標等を生徒・保護者・地域等に説明・広報する機会を設ける。	2.9	2.9

教育活動全般における目標と具体的な項目

評価項目	目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の編成	学科や教科の教育目標の実現に向けて、創意を生かした特色ある教育課程を編成する。	3.1	3.1
		教育課程の実施に当たって、教育目標の達成状況を定期的に点検する。	2.9	3.0
教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	各教科・科目の学習方法を事前に生徒に説明する。	3.1	3.1
		基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	3.0	3.2
		生徒の実態に応じて指導方法や指導形態を変えるなど、授業の創意・工夫に努める。	3.0	3.1
	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	生徒の実態に応じて教材を精選し、また教育機器を活用するなど指導の工夫をする。	2.9	3.0
		効果的な授業を実践するため、使用する教材や教具についての研究・研修をおこなう。	2.9	3.0
	教職員の共通理解のもと適切な評価を行う。	担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価をおこなう。	3.0	3.1
		定期考査の得点以外の観点も評価に加味し、生徒の多面的な能力を評価する。	3.2	3.3
		評価はその後の授業に還元し、評価と指導の一体化を図る。	3.0	3.1

〔学年〕

目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
第1学年 長崎工業高校の生徒としての自覚を持ち、基本的な生活習慣を身につけ、「生きる力」を育む。	月間出席率95%以上を目指し、規律ある基本的な生活習慣を確立する。	3.3	3.3
	授業や資格取得に真剣に取り組み、提出物の期限を守り、家庭学習の定着に努める。	2.9	2.9
	部活動等の諸活動に積極的に取り組む。	3.1	3.2
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
第2学年 中堅学年としての自覚を持ち、規律ある生活態度を確立し、進路目標の具体化に努める。	自主的で規律ある生活態度を確立する。	2.9	2.9
	全生徒が一つ以上の資格を取得、もしくは検定に合格する。	3.3	3.4
	学校行事や部活動に積極的に取り組む。	3.1	3.2
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
第3学年 伝統ある長崎工業高校の最高学年としての誇りと自覚のもとに規律ある生活習慣の確立に努め、自己の進路実現を図る。	自らの進路の適切な選択とその100%の実現を図る。	2.9	3.2
	規律ある生活態度を確立させ、社会人としての基本的な生活習慣を育成する。	2.8	2.9
	最高学年としてのリーダーシップを発揮し、学校を活性化させるよう努める。	2.9	3.2

〔分掌〕

目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
教務部 日常業務の円滑な運営に努め、学力向上のため学習環境を整え、学習指導の充実を図る。	各学年・分掌・教科・学科及び定時制との連携を密にする。	2.8	2.9
	施設・設備工事による学習環境への影響を軽減する。	2.8	3.2
	主体的に学習に取り組む態度を養い、学習習慣の確立を図る。	2.5	2.5
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
生徒指導部 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指し、工業人としての基礎・基本の確実な習得と自ら学ぶ意欲・態度を育てる。	服装、容儀などについて生徒指導を中心に、生徒・保護者に説明した上で全職員が共通した指導を行う。	3.0	2.9
	交通指導・校外巡視の徹底により、安全意識を高め生命尊重の精神を養う。	3.1	3.4
	問題行動の未然防止に努め、特別指導件数を一桁に止める。	3.2	2.9
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
生徒会指導部 生徒会活動への参加を通じて、学校への帰属意識を高め、社会に貢献できる人物の育成を目指す。	生徒一人ひとりの生徒会活動への積極的参加と意識の高揚を図る。	2.9	3.1
	部活動を通して心身を鍛練し、学校生活の充実を図る。	3.1	3.2
	挨拶・容儀・乗車マナー等、生徒の規範意識向上を図るため「高校生さわやか運動」を推進する。	2.7	3.0
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
進路指導部 生徒の自己実現に向け組織的・積極的な援助を行う。	年間を通じた進路指導の充実を図り、望ましい職業観、勤労観の育成を図る。	3.3	3.3
	自己の適性を把握すると共に、将来を見据えた主体的選択力、自己教育力の育成を図る。	2.8	3.1
	学力向上対策補習・進学補習・公務員補習を実施し、進路先に応じた実力の養成を図る。生徒の進路実現満足度100%を目指す。	3.0	3.4
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
図書部 生徒の読書に対する興味関心を高め、かつ生徒が利用しやすい図書館運営を目指す。	朝の10分間読書の充実を図る。	3.4	3.3
	新着図書や良書の広報に努め、図書館利用者数を60人／日以上とする。	2.2	2.6
	図書委員による選書や書架の整理を行い、利用しやすい図書館をつくる。	2.8	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
体育保健部 運動の生活化と健康の保持増進及び体力の向上を図る。	生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成を図る。	3.2	3.4
	健康の保持増進のための実践力の育成を図る。	3.0	3.3
	体力の向上を図る。（新体力テストの各検査で全国平均を超える。）	3.2	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
環境整備部 地球温暖化防止5S運動を踏まえた美化活動や環境対策活動の意識や実践力を高め、快適な学校環境づくりや環境にやさしい人づくりに努める。	環境教育講演会を開催することで、環境美化活動への意識向上と行動力育成を図る。	3.3	3.1
	清掃活動・ゴミ分別活動を徹底し、校内環境美化を推進する。	2.7	3.2
	生徒・教職員が積極的に省エネ・省資源活動に取り組めるよう工夫する。	2.9	3.0
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
研修部 教師としての資質向上を図ると共に、多様な教育活動・研修活動及び生徒の研修活動を推進する。	職員研修の機会の拡大と資料の共有化を推進する。	3.1	3.1
	人権教育・平和教育及び国際理解教育の充実と各種コンクール・コンテストへの応募を推進する。	3.0	3.2
	各学科・教科との連携を図った資格取得・検定試験を支援する。	3.1	3.4
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
教育相談部 生徒理解に努め、生徒の自己実現を支援する。	生徒をよく観察し、生徒との温かい人間関係の確立に努める。	2.7	2.9
	奨学金について保護者・生徒に周知徹底し、担任との連携を図る。	3.6	3.4
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
情報広報部 各種説明会やネットワークを利用して本校の広報・啓発活動の充実を図る。	保護者や中学生に対する本校の広報活動を推進する。	3.4	3.7
	職員共有フォルダを活用しての資料提出やデータの共有することで校務の効率化を推進する。	3.4	3.5
	行事等の記録の充実を図り、ホームページの更新等に生かす。年間20回の更新を	2.6	3.2
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
事務部 教育環境の充実に努める。	生徒が安心して過ごせる安全で機能的な教育環境の充実に努め、省エネルギー・省資源活動を推進する。	3.0	3.0
	身なり・あいさつ・マナー・思いやりを基本に明るく丁寧に適切な対応を行い、校内外の信頼を得る。	3.0	2.9
	県民・保護者等に説明できる効率的かつ適正な事務の執行に努める。	3.0	3.0
	学校業務の流れを理解し、組織内においてチームによる業務遂行を行う。	3.0	3.0

〔学科〕

目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
機械科 機械技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、産業界が求める自信に満ちた工業技術人を育成する。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指し、工業技術人としてふさわしい品性	3.3	3.5
	各種資格・検定試験に積極的に取り組ませ、合格率80%以上を目指す。	3.4	3.4
	進路指導を強化し、進路実現・進路満足度100%を目指す。	3.1	3.4
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
機械システム科 基本的な生活習慣を身につけ、ものづくりを通して専門の知識・技能を習得実践力ある技術者の育成を図る。	あいさつ・言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける。	3.1	3.3
	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	2.9	3.1
	(電子機械コース) メカトロニクス技術の基本的技術の習得と応用力の向上を図る。 (造船コース) 造船に関する基礎的な知識の習得と応用力の向上を図る。	3.0	3.0
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
電気科 将来の自己実現に向け、有能で人間性豊かな電気技術者を育成する。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.3	3.4
	各種国家試験・検定試験などで合格率80%以上を目指す。	2.8	2.6
	電気分野における基礎学力の向上と充実を図る。	2.9	3.0
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
工業化学科 工業人としてふさわしい高い人間性を持つ実践的な化学技術者の育成を図る。	実験・実習・ものづくりを通して高い技術・技能を身に付ける。	3.0	3.0
	危険物(乙4) 合格率80%、高圧ガス(乙化) 合格率50%以上を目指す。	2.6	3.9
	環境保全や省エネルギーの意識を高め、安全に配慮できる技術を身に付ける。	3.0	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
建築科 建築物の設計や工事現場の管理及び施工技術や技能に関する知識の習得を図る。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.4	3.4
	2級建築施工管理技士試験(学科) 合格率80%以上を目指す。	3.1	4.0
	実験・実習によって建築の知識を深め、設計や施工に必要な技術・態度を身に付ける。	3.4	3.6
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
インテリア科 インテリアに関する基礎的な知識と技術を習得させると共に、個人の持つ能力を伸ばし、自己実現を目指す助力を行う。	インテリア全般の基礎的な知識と技能を身につけさせる。	3.0	3.3
	資格取得や各種コンペ等の競技へ積極的に参加させ、各個人の能力や学習意欲を高める。	3.6	3.7
	生徒が自らを理解し、自立した生活ができるよう指導する。	2.9	3.1
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
電子工学科 進路の実現に向けて、学力の向上に努め、資格取得を通して専門性を深化させるとともに、環境問題や省エネルギーに配慮できる技術者の育成を図る。	実習やものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.4	3.7
	各種国家試験(無線技士・工事担任者等)・検定試験などの資格取得を図り、合格率80%以上を目指す。	3.6	3.7
	電子工学における基礎学力を確立し、専門性の向上に努め、環境問題に配慮できる、規範意識と勤労を重んずる技術者の育成を図る。	3.3	3.3
目 標	具体的な項目	中間評価	年間評価
情報技術科 ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識と活用能力・応用力を身につけ、情報通信ネットワークやコンピュータ制御等の分野で幅広く活躍できるICT技術者を養成する。	ものづくりを通して技術・技能の向上を目指す。	3.0	3.2
	情報系の国家試験合格者25名、その他の国家試験・検定試験の全員合格を目指す。	3.3	3.2
	情報に関する知識・技術の習得を通して、志望する進路の実現を目指す。	3.1	3.3